新類題和歌集

春之下之下

六

和書門
類 二五五九二 號
六八 函
九 架
三〇 冊

内閣文庫
和書
類 二五五九二 號
三〇 冊
二〇一 函
三 架

内閣文庫
番號 和 25592
冊數 30 (6)
函號 201 15

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

浅草文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

和歌九首

〃

〃

〃

〃

〃

山路春花　家集

万代集

〃　隔山路　橘氏

〃　隔山の

山水　〃　多　家集

〃

〃　隔岩

〃　深河の

春花如雪

〃

〃　花如雪

〃　岩而

〃　如雪

雨中山散

〃　家集

雨後春花

〃　〃

曉　〃　家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風雅和歌

柳色　重之
貞観　新像
御代　石原
石原　実世

風雅和歌

春風　重之
春雨　石原
実世

碧落情紀

欲移　重之
将散　重之
欲散　重之
欲散　重之
散散

実香

半散　重之
半散　重之

花易散
春雨
春雨

郷愁
春雨
情歌

松間の柳
深山の柳

古木の柳
月情

月むらくもの　家集

雨中情を

情を伝進

毎年情を　家集

情を伝年

夕情を

松尾情を　金葉集

遠岳情を　五家

光情を

隠れ情を

老人情を

独情を　文治三八　五家　文治三十五　五家

羇中暁花　家集

羇中夕を

旅宿を　後拾遺

旅宿花

旅宿花

花を旅宿

花を　西行　家集

万葉集

拾遺集

隠岐集

後拾遺

家集

旅ひとりこの中陸奥かたぶくの月の袖も羇の月　新古今　秀能

夕ぬれ日ぬれの袖もとまるやとる旅のかたぶく　秀能

雲は月より山路の旅ゆくうつる花のもとをみる

かの都にて本居のかたをまもる花の下に　長能

春風よ松風のうつるまきの山　秀能

名にしおはばこの花の色をうつしの山　宗尊親王

伊勢の山花ともやいはんうつるまきの山　道云

みなれぬるのむかしをしのぶ花の色の　為相

咲きかはる花のうつりをみるにつけて　特を

やどしてその影をみるうつりかはる花の色の一しほ　秀能

いくたびかまつ人とはなれぬ山のきてうつりかはる花の色　家集

いつの世か匂ひてうつる花の風　中務

春雨

為不老
志賀山戯

千代
玉葉集
詠り言
百首

〃
宮内卿人

〃
〃
拾遺
家集

〃
後撰集
百首

永正三四年
百首

[illegible]

志賀花園

[illegible]
後撰集
[illegible]

文明三年
百首

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

花春美

永享七二年
百首

[illegible]

寄花眺望

花比眺望　　澤世集　　家集

花　　〃

春ごとに　　〃

春ごと述懷　　後千載　風雅

〃　　玉葉集

〃　　家集

〃　　〃　　〃　　〃

春ごと述懷　　拾藻抄　園冊

〃

春不述懷　　家集

〃　　〃

述懷花　　〃

春ごと懷　　〃

寄儒ごと　　〃

寄ごと思　　〃

ごと俗齋懷　　〃

寄懷四　　家集

〃　　〃

寄もしらず　　〃

かきてやる　　〃

春ごと卯花　　家集

〃　　千載

春ごと述懷　　家集

〃　　〃

都のうちの春の花をとりやるかの方の春をとりやるかの方の春をとりやる

山家

〃

〃

〃

花下紙祇園紙花
家紋紙花
家々新数

こゝろ色
家々定家
具観花
家紋
家紋祝
家々祝儀

家紋
家々源
花色
花色
花色
花色喜色
花咲色アリ
花色佳色
花寿春旬
花桐人芳
毎家々芳
花源色

春毎家々花や春ことゆる色ゆ　秋色

と毎年旬の花とみるゝ人のいとの色とあるもとぶん　芳俊

なかるゝ人のこゝろの色はいとのこゝろ　寄む
四乃季ふるゝ人のこゝろ　伊尾
わよあ家の人も花ゝ　実兼
あるる人ゝみなきの色　通を
ものゝ人ゝ　芳

花勝お年
延年花祝
延年玉祝　乃文八三石家
〃
〃

延年玉祝
毎年有花
花延年春　春集

〃
〃

花供多春　〃
花祭延年
花祭千年　春集
花祭万年
花祭万〇　後撰

花祭万春　後拾遺集
〃
〃
〃

花月之情　春情寄花　　俊成卿

〃　雖一　　〃

春情寄花　　〃

〃　　〃

恋寄花　　〃

心術在花　　〃

春情寄山花　　〃

毎寄花恋心　　〃

花恋不定　　東宮人丸家

花恋不静　　東宮人丸家

花忘無　　〃

花新宮心　　〃

花不言志　　〃

〃

花不競来　　〃

花もうの思ふ子と繁と花ちれいつ世の色ゝ色もかはらん　長実

春のひのかすゝの山の横雲ゝ伴ひ来ゝ　俊頼

春ふかみ花のやかげ立ちぬ人も落ちゝ　俊頼

春ゝ乃ゝ色ゝ花ゝ心ゝ世ゝの山ゝの春ゝ花　俊成

春とも芳ともいはし花咲ゝ人ゝ　新古今

花ゝの咲ゝ花ゝ散ゝ　新古今

春ゝ花ゝ散ゝ　俊成

桜ゝ花ゝ散ゝ　俊成

桜ゝ花ゝ散ゝ　俊成

桜

花山院後

花不移春

後京極

後花色

花咲有主遠

隆房卿

春花ふる

春花ふる

春花ふる

百文
〃
花会風雅多〃
〃
後宴の時
無常の花の
遠又人家花使人
不論貴賤親疎
花園の樹礼
夕礼百文
百文
〃
故園花前会
永四文
不久花
永四文
来後山京
〃
遠執義好
花色清遠
永四文
永四文
〃
〃
〃
〃
〃

春野遊　春集

野花至春

夕雨遊

春日雪晴

晴天遊絲　昭憲皇后

〃　〃

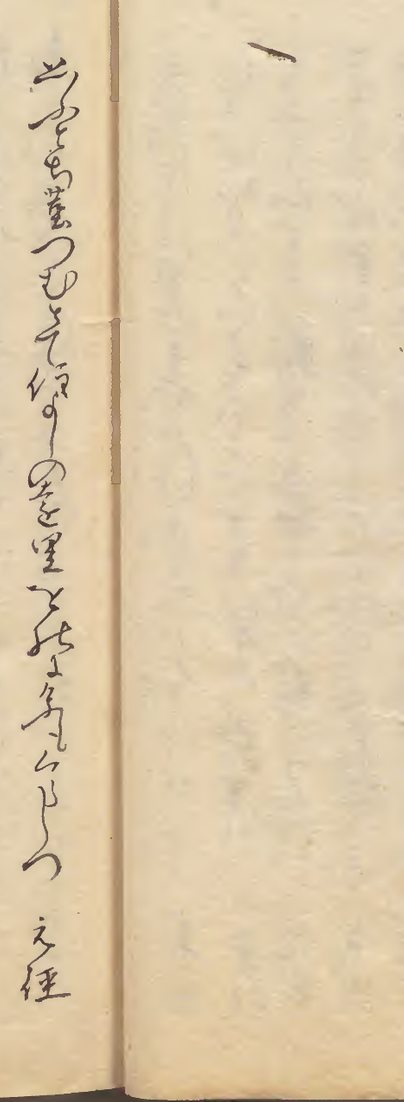
〃　〃

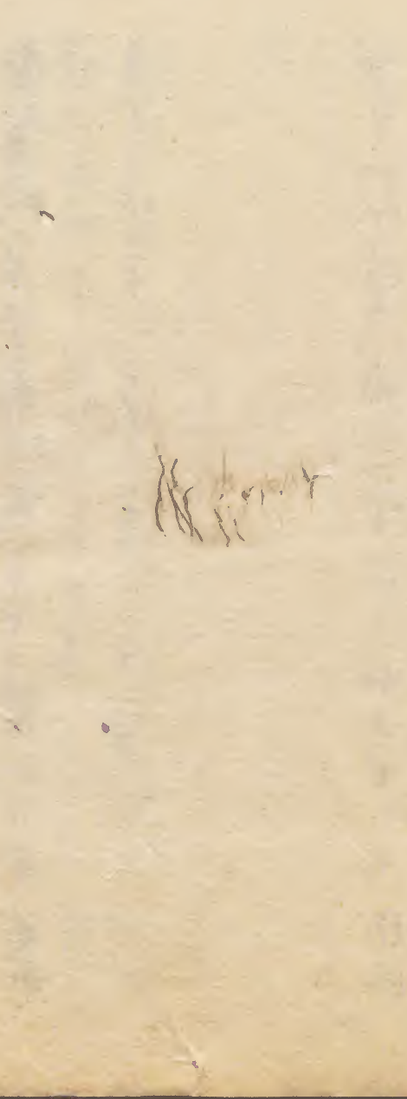
天和遊絲

夕遊絲　実西三条公

野花絲　隆祥集

雨中花絲　後朝ト都合ヲ永正元年ニ公





春日遲

遲日

春日

春朝日

冥居春日永
春日迷日遅
独坐天難暮
三月三日月

桃

〃

〃

桃

花

一人三民
〃

〃

壽桃花

賞桃

歌桃花

桃曝日

夕桃

桃花不言

桃花浮水上

桃花

李

梨花

〃

〃

〃

梨花

山梨の
花

苗代の
花

桃の花

春の
雨

春日の
山

春山の
雨

山中の
雨

江の
雨

海の
春雨

江の
雨

山の
雨

春の
雨

春の
雨

草

春の雨の中の花の色はいとやさしく神さびもしたる花深く春とてもいとうつくしき日の光の花の色の
あるかとのみ見えつるに日の光の花の色はいとうつくしきものなりけりとのみ思ひつるに
春の雨の降りかかりたるは花の色のいとうつくしきものなりけりとのみ思ひつるに
花のいろとのみ思ひつるに雨の降りかかりたるは花の色のいとうつくしきものなりけりとのみ
思ひつるに雨の降りかかりたるは花の色のいとうつくしきものなりけりとのみ思ひつるに
雨の降りかかりたるは花の色のいとうつくしきものなりけりとのみ思ひつるに
雨の降りかかりたるは花の色のいとうつくしきものなりけりとのみ思ひつるに
雨の降りかかりたるは花の色のいとうつくしきものなりけりとのみ思ひつるに
少時日のくれもてゆくに雨の降りかかりたるは花の色のいとうつくしきものなりけりとのみ
思ひつるに雨の降りかかりたるは花の色のいとうつくしきものなりけりとのみ思ひつるに

玉水
山茶花
うつむき

草

草

玉水
柳むし
竹葉
雁来紅
垂柳葉
ねこ
い

秋てまつ咲くつゆしてかくれ
咲ぬ花の色ハ
咲ぬ花の色ハ
咲ぬ花の色ハ

野草菜

胡野草　大隅国月氏石斛　春夏

野俗し

野俗草菜　長寿草　永正元年十月　石斛　八月　四月

野の草

俗し

故々と

故々草菜　橋敬

庭草

庭草菜　今撰集

庭草章

庭草　千代　文明　千代　千代　千代　永正八年　石斛　春夏　永正四年　石斛　四月　春夏　長禄四年　天文五年　四月　春夏

庭草菜

接草菜

仙草
古仙草

古仙草
芋草

籬草
籬草菜

草菜多
草處々

橋草

橋菜

草深神
苗代草

名不草
名不草菜

草花

蛙

雨中蛙

夕閑蛙

夕〻声鳴
夕陽に声
昔閑に声
逐秋閑し
水辺に
池に
古池帳養
池の蛙 春来

十番合

春やとく〻来ぬらん蛙鳴く
雨中
雨の日の山の上の山の上の人ひきて蛙多
山もとのひやもとぬる蛙の心とする
春泥
水辺に蛙の多の蛙もしやもんん
やうとうの多とうの蛙
鳴のうのれぬ蛙
夕蛙の色
夕日氣のかねのここうの蛙小
蛙の
池のこのうきの蛙
蛙鳴し
蛙
清水の池の蛙鳴
池の蛙のかいやもみえひてきよ蛙の
蛙の

田地

田

春田

夕田

苗代

苗代

苗代蛙鳴

苗代

苗代夕

而て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蕨

苗代れ

水辺こと　四月三月

〃

〃

汚明こと

河こと　五月

河辺こと

永享七年八月
[illegible]
千そ

〃

[illegible]

苗代のもとに小さなる山田の所にあふせて
[illegible]田にうゑかけあるを人の去ハしるる苗代の
山の中にうみとる小田の苗代ハ
[illegible]
[illegible]

実隆
[illegible]
[illegible]
実陰
[illegible]

山河にそふ[illegible]の[illegible]を苗代[illegible]の[illegible]
[illegible]の田のもとにまつる河風[illegible]
山里ハ山[illegible]かる苗代[illegible]
朝日[illegible]

栢む
[illegible]
[illegible]

山[illegible]
[illegible]の田[illegible]
[illegible]の苗代小田[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

田多苗代

〃〃布遅東

〃〃處こと　[illegible]

左右有こと

名所こと

文亀
千そ

山河や苗代[illegible]
[illegible]河[illegible]小田の苗代
[illegible]

中院
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

岡鄰路　新集

苦々　寛四三年五月

洞々々

野徑々々

路々々

々々　文道　新集

旅路々々　石そ

旅徑々々　新撰物語　永享三年五月

山人の家　新集

天文七年五月

形辺々々　新集

々々　映水

海辺々々　新集

浦々々　成安三八　結城古調伝　永享十三年五月

山家々々　新集

松下々々　文明十年　永享十年　石そ

樹陰々々　永享六年五月

巖々々　無規集

海辺の家々の戸ぬけて入る月の光の海にうつりて波の音のいとすさまじく聞えたる海の面にうつりて

巖上鄙路

ここ留人
為ちこ
杜若

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古池杜鵑　赤木千前

文政千前

限こゝ　伊勢細ト　寿白

伊勢こゝ

石そ　永四寸五分

こゝ　似参

こゝ　後石

こゝ　一叢

こゝ　似参　後光寸

あけるよりこの池の杜鵑いくむらとなく陰きぬ凡　古槃　神き

来源と独活よりもなほ高き芦のもとか屋陰つゝ杜鵑なる　家祥　閑尼　上務

海のなかなる苔さく緑と色を杜鵑なる

なかなる苔と分めて杜鵑池のなかなる陰て

いとぬまの下のこやいなる凡陰て陰なる杜鵑なる　忠成　孫屋　寿也

みさしめて陰いてあはなるといとこむる杜鵑なる

或者とあはなる杜鵑むて陰なる杜鵑凡　後量

杜鵑なと陰て陰なるのまこゝろ凡

咲なるいとなき杜鵑いつくまのしりやなき　三宅　芳閑

うもらうゝ池の参陰杜鵑なる一ちぬ岩の下沢

咲参のゆくまみて紫の参て陰てぬ杜鵑なる　内良

前

こゝ　実宅四十六　五寸

〃石そ

〃

〃

雨中凝水　新宮寺

雨陰こゝ　赤木

くゝ　亀山　寿

参陰なる池の杜鵑なるとなきぬ杜鵑なる　道秀　実陰

咲参の参なる池の杜鵑なる　実陰　嘉平

池の杜鵑なる参なる杜鵑なる　嘉平

杜鵑池の杜鵑なる参なる陰なる参なる　五安

いまなくみちのくの山陰のなる　実内

なくなくみちのくの山陰のなる　柳也

なくなく都て陰なる山陰の花　〃

なくなくみてなくなくなる後やまの山陰　〃

咲なる姿かなる山陰の花　〃

陰雨くなる山陰の花　〃

山陰の花の姿〇の参陰なる陰なる凡　為家

知なくなる花のなくなる山陰の参　内明

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌名所盛衰

〃　櫻散

〃　〃

〃　〃

〃　〃

歌冬、春水

山吹流水

水底こゝ

池こゝ

〃　金葉集

伊勢

千首

〃　夫木千首

こゝ　後拾遺

湖ノこゝ

和歌初句

湖こゝ

〃　永久百首

〃　堀河

時雨集

山吹の花ゝとつもる水のもいかてもしかまの井よのゐ川　俊成　探集

立ちつゝ乃きもしかりけるを山吹の花のもちるまの春の河のこ　伊勢　探集

春あるゝ池のこゝ松をかけも山ぶきの花　千首

かゝるつゝ池のムの底はて山ぶきの花　〃　夫木

池のゐもきて山吹の花をもとめる春の水　家隆

ちりて池こゝ山吹の花　夫木

八重ゝ匂ひて山吹の花　如成

池つゝの底ゝ山吹の花　形信

ゝよりやゝ池の流れ山吹の花　〃

いゐぬゝ池ゝ山吹の花　〃

ゝる池ゝ山吹の花　〃

山吹のゝ山吹の花　〃

ゝ池ゝ山吹の花　〃

ゝ池ゝ山吹の花　〃

ゝ池

八幡獅子

色々

元文二年九月十五日
陳ス

千代

〃
永享二年
石寄
文政
千代

常陸
永正八年
石寄

伊勢社
千代

永享七年
石寄

迎獅子

古御所

獅子

〃
天文七年
石寄

常陸
永正元年
石寄

〃
寛永三年
石寄
天保八年
〃

獅子百

寛永獅子

羅中々々

石和々々

義経獅子

みなみ山の高ふく霧やまうるの山吹のまこと
実に
紫と
みなれの色いろはもあれ山の名たるや山吹色か
所を
咲あもしろ〇つあもしろふ所あと色の山吹
為尊
色てて松ふくあ〇ふ所〇の山なこの花
永長
都を行道の松ふ咲のいてを句ふ山吹のふ
当所
とそれ〇ゑ出ふ山いとるるとそけ若の山吹
境遠
ふもあるや花色ふきるとむ出て山かる色の山吹

山吹の色ふかい山、八といそてきぬ色の色の花の孝
とそ山か咲山吹の色ふかてされとうん山のむ一と為孝
ひるちふみもしもあ山吹の八重の色の高ふい
咲ふ花ふて知ぬ色ふかる色の山吹為尊
山ふ色色をみる高八重山吹の花いとけとも世
おきとい色の海てまふと色のあるや咲る山吹物語

花とふこそふ高の色ふ八重山吹の色とふ高む
八重白ふ林やふき山吹の高ふかくるの色い
山高の色とかいて山吹の色色ふるる高ふ
山高もとを色の山吹やとふ〇白ふふ山
咲ふる八重山吹やふ高のセ重ふき色ふふん
いふ岩の八重山吹の色ふ井てのふふ山ふて
知ふてみるあふ〇いむ〇ひふふて井ふの山吹の花
山吹の白ふの井ふ鳥ふかふふふの高人
山八重や松ちふふふの川咲ふをめけ一の山吹
風咲し松ふふゆくふこ高ふ高の高波
かふふふふの川ふふの高ふ高の高波
咲ふ松の松八高ふ風ふ松ふて山の高ふて
咲ふ松ふふふむ高波の高ふかふふ風ふふ
咲ふ風ふふて松ふふふふふふ高の高波

高む
高波
為孝
為孝
為孝

芳似香
芳色似香
雨中芳
春中芳花

見芳花
遠平芳花
歌芳花
折芳

芳花続
芳花続
芳花如続

梅花
春歌
大永三年
五首

百花
天文三年
五首

梅
春歌
梅花
梅
春歌
梅花
梅
春歌
梅花

晩夏茅花盛　新撰万葉集

茅花盛　同

〃　新撰

〃　拾遺

〃　千載

〃　新後拾遺

〃　久

〃　新後撰

〃　久

〃　新後拾遺

〃　久

〃　新後撰

〃　久

〃　新後拾遺

〃　久

〃　新後撰

〃　久

松間花

杜鵑

杜

杜鵑

歳暮

杜

杜

杜

杜

水辺

永四九年
五月八日

紫の花のゆゑとなる時ぞ
紫の花のゆゑとなる時ぞ

山ちかく咲くの花
山ちかく咲くの花

夏咲く杜の花
夏咲く杜の花

永四六年
五月

永四九年
五月

永四年九月八日
永四年九月八日
永四年八月
五月

夏来
夏来
夏来

夏来

夏来

雲映水
元浮水
元水写
水辺杉
池こ

永宣
改為
称義
当宗

称義
本宗
実教

実教
実教

称義
本宗
実教

池辺春景　　永享三年三月　日　　藤原為秀

池時雨　　永享三年三月　日　　藤原為秀

池春雨　　永享三年三月　日　　藤原為秀

池雪　　永享三年三月　日　　藤原為秀

池の面に咲そふ春の花のうつりをとゝめかねてやみつゝふけの春の暮ぬるうらうらの日の海の面にうつりてをゝる春の陸地の花の色ゝ春の陸地の花の色ゝ春の陸地の花の色ゝ

浦辺松

浦辺家

浦辺

浦

浦

浦

類聚歌林

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紫苑

十五夜の色とうたがやはらかの杉はたちの葉の紅
[illegible]
[illegible]
[illegible]

暮春霞

百首

春霞
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

暮春雨

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

暮春雨

[illegible]
[illegible]
[illegible]

書朝

野こと

山こと

こと　山　窓口書

坂こと　大藤之枝ヲ伐ル者歟

こと　野　者歟

関こと　者歟

こと　橋

こと　沢　石ヲ

水を書

書集江

江こと　長者ノ家ヲ伐ル者

河こと

河辺こと　者歟

湊こと

こと　城

海こと

海を書　山者歟

海路書集　林業之歟　者歟

海路を書　口

書春浦　茅屋

江こと　橋也

こと　長者歟

こと

口

河こと

河辺こと　者歟

湊こと

こと　城

海こと

海を書　山者歟

海路書集　林業之歟　者歟

海路を書　口

書春浦　茅屋

春雨機　春雨

湯〻〻

山家〻〻　野人の
　　樵夫
　　家集

文き三位
　　俊成卿
　　林葉集
　　野家集
　　いろは

山家雪雪
雪美花

　　長五

[illegible]

[illegible]

〻〻〻　花

〻〻〻　花

〻〻〻　雪

〻〻〻　情花

　　雪
　　月
　　俊成
　　句

〻〻〻　雪

〻〻〻　花

〻〻〻　雪

〻〻〻　花

〻〻〻　雪

〻〻〻　花

一人こたへ

蕎春郷遊

こゝ歌

こゝ藤

こゝ茅花

菅春竹
菅春鳥

暮春営

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初夏の花おりてもとめる井のよもかつぬ玉水の
ひ世ふさまとやもとふたるの入きのそのもの表をつ
もとふやとさえつるの先て心とつる表のふ花作
かうれやとも初夏のもの表をあやきるの葉をしる
なしやもれとやもとやもあやつるあやきの葉
かもしふるとも初夏のもの表のもの表の葉
ゆるきい情をひとしもつもるもるの営
営のもとも思やさふん花もうるる様しるい
菅しの方と営表をふて吸をうしたもかきもの
紅ぬふふる夢をいつるまをて先て八声とあるを営て吸
ふ表吸の表や吸の表や営表ふふとともむる表のあと
営のかるふふふ表のもの表のふきのふのきふの方
ふふふしの表をふふつもふふふふふふふふふふ
かふるふふの表をふふ様営ふふふふ

柳玉
為雪
物為
雪も

柳
雪も

柳
雪も

柳

舟中春暮

舟中春暮

[illegible]

[illegible]

[illegible]

旅中春暮

旅中春暮　永正元年十三月

旅宿春暮

羇旅こゝろ

こゝ　別

こゝ有情

周春

こゝ　秋

春衣

春秋暮

春の暮

春の暮

暮の春

春の暮

春の暮

春の暮

毎人情表
老人こと
こゝ仙友

永二十八年
二月

〃
〃
〃
〃
〃

依花情表
向花こゝ
対類々々こゝ

春雪
〃
〃

〃
〃
〃
〃

船中こゝ
春不苗
情殘表
殘表少

春雪
〃
三十七
こゝ

永二十七年
行年二十七
永二十八年
二月

殘表日少
殘表二日

雪

春雪一日

山路春

厳時春雨少

霞時春雨少　白氏

春雪已開

晩春雪

山路春

山家春

春氏雨色中

春氏雨色中　白氏

寂春暮晩

小三月春

惜三月春

三月春雨

三月晦

〃〃〃 胡

〃〃〃 板

〃〃〃

〃〃〃

〃〃〃

陰三月廿七　都築十七

旅ここ〻　〃　〃　〃

羈中ここ〻　旅宿ここ〻　〃　〃　〃

ここ〻　紙　中表

後香

[illegible]

春天

天象

春朝日

風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛永十五年
文政十五年

春霞
山
海
嶺
関烟
里烟
霧
曉

春霞

春霞

春霞

同中春洞

春盡

夕

題五首

山吹

柳

春風

いそ

月

題五首

花の香をたづねて春の山

春のゆくを大方の春むすぶ露の花のをしさ

月もいさ花よ春ふるいふむ春のあるる春の夕べ

花の香をたづねて春の山

春風

春の夕べ

春の夜の月

題五首

柳

春の夜の月

春の夜の月

題五首

春夜雜

北儀

山

柳

春風

春の夜の月

春の夜の月

春の夜の月

山春
山と胡
山と胡
深山と春
深山不知春

寄山春
山と岡
山と杜
山と野

焼野の春

春の夕

春の比

春の江

春の江と云

春の海

春の浦

春の山

春の月

春の雨

春の風

春の初風

春河

寿河

河と寿

寿河の風

海寿

海辺寿賀

海辺ゝ夕

ゝ湖

ゝ浦

ゝ浦松

ゝ禁中

社頃ゝ

故々春

山家

山家春

山家の春

山家と春

山家と興

山里の春

山里と春

山里と興

山家春原　春家
山田ヽ曉　〃
ヽ田家
田家ヽ　永山家
千代
〃
文政
春家

春
春古寺
春古後
冥兵春
小々春　時春記

春田

〃
根岸村
隆長家
根岸四
隆中家
春家
和代

春山田
春里　永宝五年
二家
五十代
〃
春家
〃家

行家の春吹うたはれしもいつのころの格歌
時代の春ゆゑ春風ふきそめしより山ぶし
根岸の春ゆゑ春のうらのうらのうらのうらの
春の田ゝ井ゝの苗代ゝ田面の春は神ゝ新ゝ
小山田の苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ
苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ苗代ゝ行ゝ

春部

〃 門

〃 庭

〃 竈

〃 植物

〃 芝

〃 菅

〃 海藻

〃 池蘋

春部 春 花

〃 木

花を春まつ梅のゆかしさよ

春の日とかとくもとくもとけぬるかな

春の山ぞ花ぞ咲けるかりのかりかねの

春の月の月の高きまてとまりよりふ

さて散まをの梅ぬ梅てんとむ山の花

咲てあるやとしも風さきぬやとふん

一とせとあるわ世ゆ一とせ

むかしてふ春ふ山のもるの句まるのもの花

春とを梅ふ春ふ山のもるの色ふ

春ふ梅ふ春ふ山のもるの色ふ

春ふ梅ふ春ふ山のもるの色ふ

万木の色ふ色ふ春ふ梅ふ

梅ふ梅ふの梅ふ梅ふの春ふ

梅ふ梅ふの梅ふ梅ふの春ふ

梅ふ梅ふの梅ふ梅ふの春ふ

国立公文書館
National Archives of Japan

春原樹
〃　松

〃　山松
〃　玉松
松　知〃　[illegible]
松迎〃新
松樹迎〃
〃　松久緑
松色深〃

[illegible]
[illegible]
[illegible]

寿松賀年
松葉万寿
庭松久　家集
庭松歴々
松多々友
寿　松　家集

寿よあふ君がみまきの松の色ぶかきもゆるよの和へ　為信
かけ山の緑なる寿々泥なる松のもとに宿のしめ　為秀
寿々て万年ふる庭の松いつもしの中ゝとの松　愛秀
土を求るなとき松の色なて緑ふる寿の松対　柳む
三篇の山かすゝ三ゝとゝ松対いとく行みる寿の緑をい
山さくゝ三ゝふ松の寿ゝ三ゝ寿ゝ三ゝ寿ゝ三ゝ

〃　類　松
〃　植　松
〃　松　檜
〃　河　檜

橋葉春久
春　竹
〃　里井
〃　庭井　家集
緑井寿々
〃　竹緑色
竹添色
〃　竹寿久
薑　竹
漬芦筆
春動物　野紫草　春日こけ九　春りて伝来

高砂なる入江まもあの緑のもゝもいとゝ春の色　秋長
春日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春人幸

春人

〃　夢

〃　夜夏　千首

〃　文政十年

〃　夢柳

〃　色　文政十年

〃　文政三十九五

〃

〃

春色浮水

春色

〃　文政三十五

〃

〃

〃

春春　一人三匹　文政三十五

春雜

霞と雜　八雲集

〃　遊

〃　衣　東集

〃　夜衣

〃　枕

〃　曙枕

〃　弓　東集

〃　東

〃　車

春舟

〃　焼　十六首　東集十六首

〃　浦

〃　寺浦　東集

〃　晩景　東集

〃　旅　東集十六首

旅　春

春旅り　為忠

旅り　師兼

春旅宿　五数

旅宿春

旅宿恋

羈中春

名不春

春曙

春懐述

春懐舊

寄春懐旧

春紙、数

春紙

春紙

春の夜の月

春祝ス　初春
迎春祝ス

毎日有春
毎山有春

毎山有春色
毎家有春

神風や山の春の色ふかき
主ある春ハ物ゝ世の春
春ハ人民のまゝ祝ひ
乃と家も乃ふかと二の世の世とあらめる九きの春
時を今治春あ世の栄ゆ春を思ふ

今春の色あるハ望門の高ゆ春の色やあらん
花と咲ふきも春の高ゆる山の春
かゝもむ高ゆ山ゝの春の色や四方ゆ
嵯峨野花ゆ咲ふ春ゆ春ハ
俗人の心ゝ春の色ゆ
ゆ柳ゆ門ゆ

邦玉
貞敦
為雪

柏玉
称良

永享三年九月廿六日

万玉民の家ゆ春の日の光ゆ
世ゆ春ハ
里ゆ春ハ世ゆ春の色ハ
乃ゝの物ゆ
世ゆ春ハ
世ゆ春ハ
春ゆ春ハ世ゆ春の光ゆ
民ゆ春ハ
民ゆ春ハ

邦玉
貞敦
宣紀
重治
時俊
乃通

家ゝ敬春
春山家乃人
春日花咲
春日鶯鳴
春風春水
一時来

日暮人閑門
春雨易酒悪
池水清静

春来

山ゆの春の色ハ
春ゆ春ハ
人ゆ春ハ
人ゆ春ハ

吉之
乃里

日本政府図書

懸水澄明

草舎下相呼　永禄三年

更衣漸近　春季

知恵光院　〃

春日別業

嘉のくもり　山家集

時々ぞ

たのめてし別れ侍るものいてかまくまの巣ぞ

月ごろの花色衣ぬきうすみてなりて　俊成

玉川の底のみなそこ咲ぬとてまこと此ほのぬきぬ　〃

蛙とも言たてまつれ時雨春ぞ　〃

国立公文書館
National Archives of Japan